

高知県感染症発生動向調査（週報）

2025年 第26週 （6月23日～6月29日）

★県内での感染症発生状況

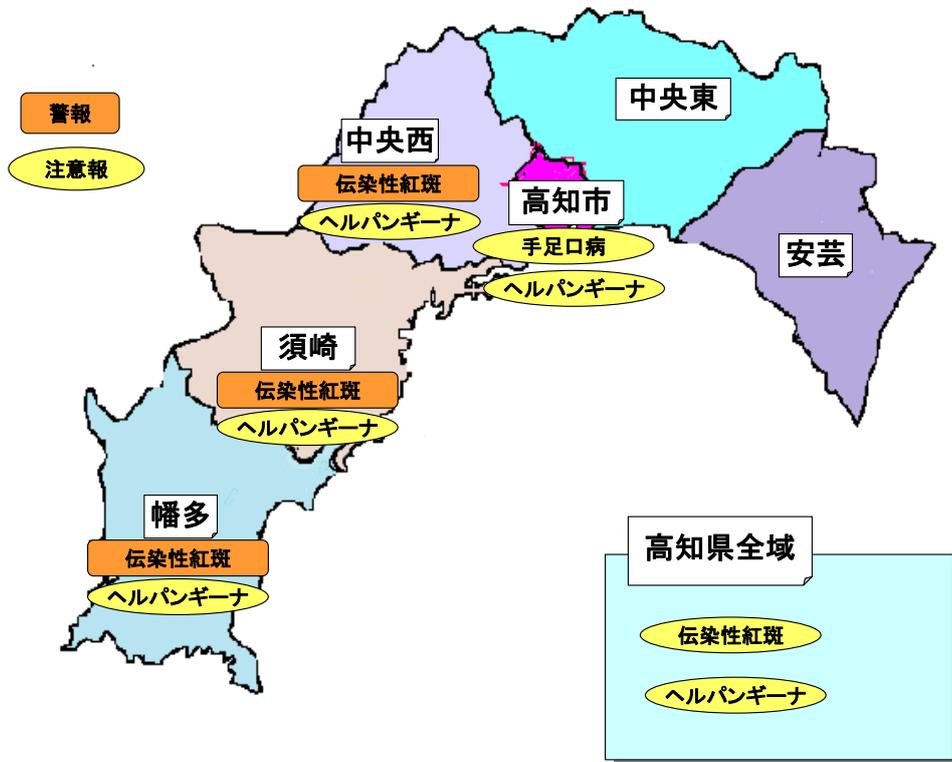
急性呼吸器感染症及び小児科定点把握感染症（上位5疾患）

疾病名	推移	定点当たり報告数	保健所管内別の傾向
感染性胃腸炎	→	3.30	安芸で急増、幡多で増加していますが、中央西、中央東で急減、高知市、須崎で減少しています。
ヘルパンギーナ	↑	2.85	須崎、中央西、幡多で急増、高知市で増加していますが、安芸で急減しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	2.60	須崎で増加していますが、中央西で急減しています。
新型コロナウイルス感染症	↑	1.26	幡多、高知市、安芸で急増、中央東で増加していますが、須崎で減少しています。
伝染性紅斑	↗	1.10	幡多、中央西、須崎で急増していますが、中央東で急減、高知市で減少しています。

<推移の基準>

急増	↑	前週と比較し、2倍以上の場合	減少	↘	前週と比較し、0.5倍以上～0.8倍未満の場合
増加	↗	前週と比較し、1.2倍以上～2倍未満の場合	急減	↓	前週と比較し、0.5倍未満の場合
横ばい	→	前週と比較し、0.8倍以上～1.2倍未満の場合			

★地域別警報・注意報状況



★週報の発行日

週報は、毎週「木曜日」の午後3時30分以降に発行します。

ただし、「火曜日」「水曜日」「木曜日」が祝日の場合は、「金曜日」になります。

★気になる感染症

百日咳

2025年2月以降増加しており、先週の第25週は1週間に100人を超えるなど過去に例を見ない流行が続いています。現在856件（2025年1月1日から7月2日までの累計速報値）となっており、10～14歳が最多ですが、全ての年齢層で多数報告されています。

また、2025年4月から6月に収集した百日咳患者の60検体のうち17検体(28%)から、治療薬であるマクロライド系抗菌剤に耐性を示す百日咳菌が検出されました。

年間報告数

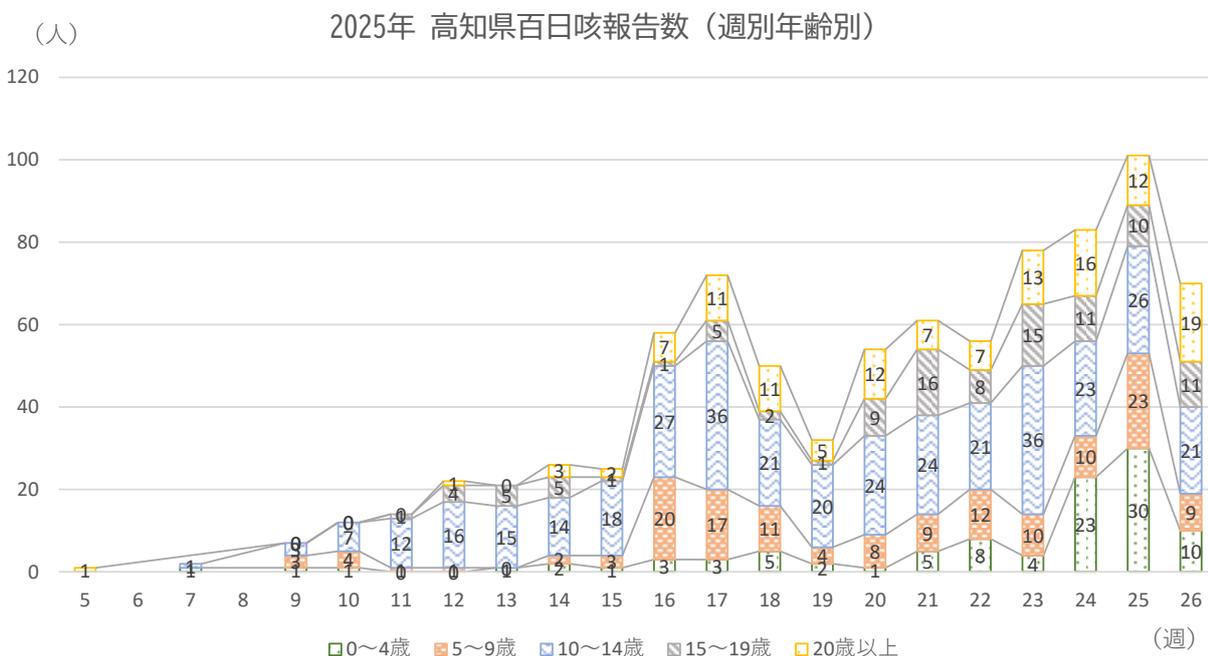
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
高知県	173	172	33	3	9	7	5	856
全国	12,115	16,845	2,819	707	491	1,000	4,093	35,810

年齢別・保健所管内別報告数

(受理週で集計)

保健所	年齢	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	総計
安芸		0	0	6	1	0	7
中央東		1	5	24	9	6	45
高知市		27	98	241	72	96	534
中央西		1	2	12	8	6	29
須崎		2	24	53	5	4	88
幡多		70	20	34	11	18	153
総計		101	149	370	106	130	856

(受理週で集計)



症状

- ① 通常7～10日の潜伏期を経て、通常の風邪症状となり、次第に咳の回数が増え、程度も激しくなります（カタル期）。
- ② 短い咳が連続的に起こり（スタッカート）、続いて息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出ます（ウープ）。このような咳嗽発作が繰り返すことをレプリーゼといい、しばしば嘔吐を伴います（痙咳期）。
- ③ 激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなりますが、その後、時折発作性の咳が出て、全経過約2～3ヶ月で回復します（回復期）。

感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫や接触により感染します。乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い疾患です。成人では、咳は長期間続きますが、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れることがあります。患者や百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することもあるので注意してください。

●予防方法

- *人混みはなるべくさけ、外出時にはマスクを着用しましょう。帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- *定期予防接種があります。ワクチンは生後2ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●学校感染症

百日咳は、学校保健安全法（同法施行規則第18・19条）では、学校感染症（第2種）に位置づけられており、「特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで出席停止」とされています。ただし、病状により感染の恐れがないと認められたときはこの限りではありません。

ダニの感染症(SFTS・日本紅斑熱)

第26週は高知市保健所管内から「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」「日本紅斑熱」各1件の報告がありました。

県内では、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）と日本紅斑熱の報告が増加しており、SFTSは今年上半期で過去最多であった平成26年の年間11例と同じ報告数となっています。

初診月	2021年(R3)		2022年(R4)		2023年(R5)		2024年(R6)		2025年(R7)	
	日本紅斑熱	SFTS								
1～3月	1	2		1		4		2		
4～6月	7	2	2		8	3	4	4	14	11
7～9月	3		8	3	5	2	3	2		
10～12月	5		2	4	3	1	2	2		
計	16	4	12	8	16	10	9	10	14	11

「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」や「日本紅斑熱」は、屋外に生息する比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

マダニは、春から秋にかけて活動が活発になります。この時期は、人も農作業やレジャーなど野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

また、ネコやイヌなどの動物が感染、発症した場合、その血液や唾液などの体液に直接接触することで感染する可能性があります。ペットの健康状態の変化に注意し、体調不良の際には、咬まれたり舐められたりしないように注意してください。必要な場合は動物病院を受診しましょう。また、ペットがマダニに咬まれないようダニ駆除剤を使用することも有効です。獣医師に相談しましょう。

●予防方法

- *マダニに「咬まれないようにする」ことが予防策になります。
- *野山や畑などに出る時には、長袖・長ズボンで肌の露出を避けましょう。
- *忌避剤（虫よけ剤）を効果的に使用しましょう。（説明書の注意書に沿って使用してください。）
- *野外活動後はダニに咬まれていないか確認しましょう。
- *飼っているネコやイヌが外で咬まれることもあります。ブラッシング等をこまめにしてマダニを持ち込まないようにしましょう。
- *体調不良のペットに触れたときは、手洗いを心がけてください。

●発熱等の症状が出た場合

- *野山に入って数日～数週間経過した後、発熱等の症状が出た場合は、医療機関を受診してください。
- *受診の際は、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれた可能性）を伝えてください。

●参考

*重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

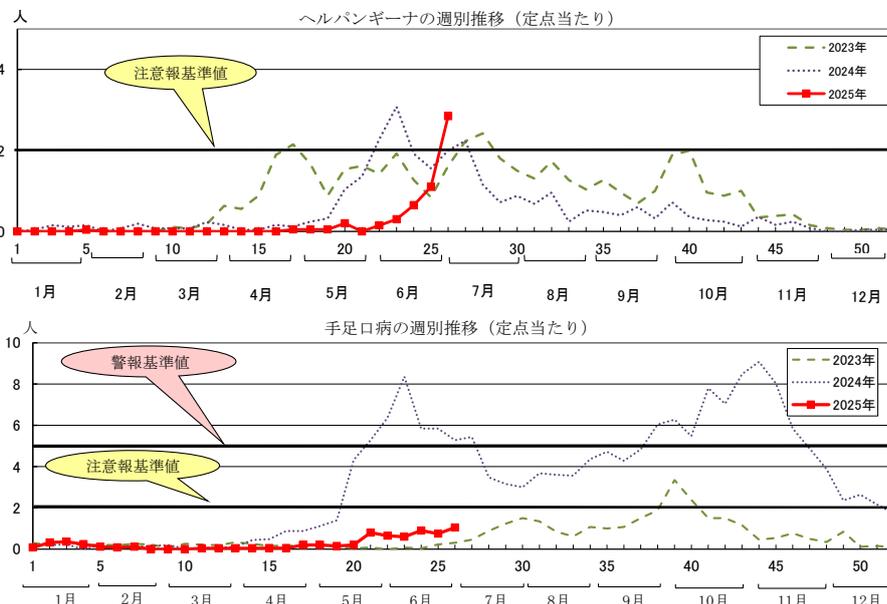
*高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024022700074/>

夏型感染症（ヘルパンギーナ・手足口病）

ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜に形成される水疱性の発疹を主症状としたいわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患です。2～4日の潜伏期の後、突然の高熱、咽頭痛や咽頭発赤が現れます。口腔内の痛みで食事がとりづらいため、柔らかく、薄味の食事と、水分補給を心掛けましょう。

手足口病は、通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ほとんどの発病者は数日間のうちに治りますが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを発生することがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

ヘルパンギーナや手足口病の原因ウイルスであるエンテロウイルスは、回復後も便中から検出されることもあるため、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活している保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。



●予防方法

*手洗いが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。

*タオル・コップ等は別のものを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。

*回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、特に、外出後、食事の前、トイレの後に手洗いをしましょう。

●学校感染症

手足口病・ヘルパンギーナ：学校保健安全法（同法施行規則第19条）では欠席者が多くなり、授業などに支障をきたしそうな場合など、「学校長が学校医と相談をして第3種学校感染症としての扱いをすることがあり得る病気」となっています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	20歳代 女性	高知市	
4類	重症熱性血小板減少症候群	1	11	70歳代 男性		
	日本紅斑熱	1	14	70歳代 女性		
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	8	80歳代 男性	安芸	
	百日咳	1	819	10～14歳 男性	安芸	
		1		10～14歳 女性		
		1		0～4歳 男性	高知市	
		8		5～9歳 男性		
		3		5～9歳 女性		
		11		10～14歳 男性		
		9		10～14歳 女性		
		3		15～19歳 男性		
		4		15～19歳 女性		
		2		20歳代 男性		
		1		30歳代 男性		
		2		40歳代 男性		
		1		40歳代 女性		
		1		50歳代 男性		
		1		50歳代 女性		
		1		70歳代 男性		
		1		80歳代 男性		
		1		15～19歳 女性		中央西
		14		0～4歳 男性		幡 多
		13		0～4歳 女性		
		5		5～9歳 男性		
		3		5～9歳 女性		
		3		10～14歳 女性		
		1		15～19歳 男性		
		1		20歳代 女性		
		2		40歳代 男性		
1	60歳代 男性					

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	いちほら内科小児科	百日咳 1例 (9歳男)
	高知大学医学部付属病院小児科	咽頭結膜熱 1例 (2歳男：アデノウイルス)
	JA 高知病院小児科	RSウイルス感染症 1例 ヘルパンギーナ 3例 カンピロバクター胃腸炎 1例 サルモネラ胃腸炎 1例 第25週 マイコプラズマ (Lamp法) 2例

保健所	医療機関	情報
高知市	けら小児科・アレルギー科	百日咳 9 例 (9 歳、10 歳 2 人、11 歳、12 歳、13 歳 2 人、15 歳 2 人) サルモネラ 041 例 (2 歳) COVID-19 2 例 ヘルパンギーナ 12 例 マイコプラズマ肺炎 2 例 (6 歳、12 歳)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 17 例 (流行している) 手足口病 9 例 (流行している) ヘルパンギーナ 4 例 (流行している) 流行性耳下腺炎 1 例 (9 歳女：ワクチン未接種) 伝染性紅斑 4 例
	ふないキッズクリニック	アデノウイルス感染症 1 例 (8 か月女)
	細木病院小児科	マイコプラズマ 2 例 (9 歳男 2 人) アデノウイルス腸炎 1 例 (2 歳女) 百日咳 1 例 (11 歳男) 咽頭結膜熱 1 例 溶連菌感染症 4 例 感染性胃腸炎 5 例 手足口病 3 例 伝染性紅斑 1 例 ヘルパンギーナ 6 例
中央西	くぼたこどもクリニック	マイコプラズマ感染症 4 例 (7 歳女、11 歳男女、14 歳女)
	日高クリニック	百日咳 2 例 (16 歳女、17 歳女) マイコプラズマ肺炎 3 例 (11 歳男、12 歳女、40 歳女) アデノウイルス扁桃炎 1 例 (1 歳男)
須崎	もりはた小児科	RS ウイルス感染症 1 例 (1 歳) 百日咳 1 例 (12 歳：減少傾向?) ヘルパンギーナ様 8 例 (増加傾向)
幡多	渭南病院小児科	百日咳 1 例 (12 歳女)
	こいけクリニック	百日咳 8 例 (7 ヶ月男、1 歳男女、3 歳男 2 人、5 歳女、12 歳男、17 歳男)

★注目すべき感染症

水痘

2025 年第 1~24 週 (2025 年 6 月 18 日現在)

2021 年以降、国内の水痘の報告数は低水準で推移していたが、2025 年第 24 週時点で、水痘の定点当たり累積報告数および入院例の累積報告数は、いずれも過去 5 年間の同時期と比較して最多となっている。本稿は、昨今の状況をふまえ、国内における水痘届出症例の最新の疫学的状況を報告することを目的としている。

水痘は水痘・帯状疱疹ウイルス (VZV) の初感染で発症する発疹性の疾患であり、VZV は感染力が強く、主に空気感染、飛沫感染、接触感染で伝播する。また、体内の VZV の再活性化によって発症した帯状疱疹患者からも感染が伝播しうる。水痘の主症状は発疹、発熱、倦怠感である。発疹は通常、紅斑から丘疹、水疱、膿疱、痂皮化を経て治癒するとされているが、急性期にはそれぞれの段階が混在することが特徴であり、頭皮、体幹、四肢の順に出現する。なお、水痘ワクチン接種後 42 日以降に水痘に罹患した場合はブレイクスルー水痘と呼ばれ、一般的には軽症で発疹数が少なく、発熱が見られないこともある。水痘は主に小児に多く予後良好な疾患であるが、成人や妊婦、乳児、あるいは免疫不全や合併症がある場合には重症化のリスクが高くなる。また、妊娠早期の感染では胎児死亡や先天性水痘症候群のリスクがあるほか、出産の前後数日間で母親が発症すると児が重症化する場合があり、児の致命率が高くなる。水痘はワクチンで予防可能であり、日本では 2014 年 10 月に定期接種の対象疾病に定められた。定期接種対象となるのは

生後12～36カ月に至るまでの児で、3カ月以上（通常6～12カ月）の間隔をあけて2回の接種を行うこととされている。

わが国の感染症法に基づく感染症発生動向調査において、水痘は五類小児科定点把握対象疾患に指定されているほか、水痘で24時間以上入院した症例（他疾患で入院中に水痘を発症し、発症後24時間以上経過した例を含む）は五類全数把握疾患〔水痘（入院例に限る。）〕として届出の対象となる。さらに、学校保健安全法における第二種感染症としても指定されており、罹患した児は原則としてすべての発疹が痂皮化するまで出席停止となる。

小児科定点把握対象疾患としての水痘の報告数は2020年以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行もあり低調であった。しかし、2025年第24週の定点当たり報告数（0.61）は、昨年同時期（0.25）、また直近で第24週の定点当たり報告数が最も高かった2019年（0.39）を大きく上回っている。また、直近5週間（第20～24週）の定点当たり報告数も過去5年間の同時期と比較して最も高い水準であった（表1）。

表1. 各年第20～24週における水痘の定点当たり報告数（2020～2025年速報値）

	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週
2020年	0.09	0.09	0.08	0.10	0.11
2021年	0.12	0.13	0.12	0.12	0.11
2022年	0.07	0.09	0.09	0.08	0.08
2023年	0.10	0.13	0.11	0.13	0.13
2024年	0.16	0.22	0.22	0.21	0.25
2025年	0.54	0.59	0.59	0.47	0.61

（2025年6月18日現在）

2025年第24週の定点当たり報告数上位5都道府県は、埼玉県（1.73）、神奈川県（1.40）、東京都（1.09）、宮崎県（0.87）、北海道（0.80）であった。

小児科定点医療機関からの報告数では、2025年第24週で1,435例であり、そのうち、男性が810例（56%）、女性が625例（44%）であった。2025年第1～24週の累積報告数は22,507例となった。年齢分布を過去5年間の第1～24週の累積報告数と比較すると、2025年は0～4歳ならびに15歳以上が占める割合が減少し、5～14歳が占める割合は増加した。2020～2025年の第1～24週における累積報告数（n）と年齢分布は表2のとおりであった。

表2. 第1～21週における百日咳の累積報告数の年齢分布（2018～2025年）

	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15歳以上
2020年 (n=19,066)	3.59% (685)	28.45% (5,425)	53.42% (10,185)	12.72% (2,425)	1.81% (346)
2021年 (n=8,876)	4.66% (414)	30.25% (2,685)	47.43% (4,210)	15.09% (1,339)	2.57% (228)
2022年 (n=5,654)	6.26% (354)	30.93% (1,749)	41.97% (2,373)	16.86% (953)	3.98% (225)
2023年 (n=6,500)	4.95% (322)	26.29% (1,709)	45.37% (2,949)	19.75% (1,284)	3.63% (236)
2024年 (n=11,708)	3.44% (403)	21.93% (2,568)	48.76% (5,709)	22.27% (2,607)	3.60% (421)
2025年 (n=22,507)	2.04% (460)	17.63% (3,967)	50.90% (11,457)	26.63% (5,994)	2.79% (629)

*累積報告数は各年第24週の集計時速報値

（2025年6月18日現在）

五類全数把握対象疾患としての水痘（入院例に限る。）で2025年第24週に診断された症例は16例であり、2025年第1～24週における累積報告数は294例であった。過去5年間の同時期の累積報告数は120～

220 例の範囲で推移していたため、本年の報告は例年を上回る水準となっている。2025 年に報告された 294 例のうち、届出に必要な病原体診断を満たす検査診断例が 118 例（40%）で、臨床診断例が 176 例（60%）であった。性別では男性 158 例（54%）、女性 136 例（46%）であり、年齢中央値は 32 歳（範囲 0～97 歳）であった。届出に記載されたワクチン接種歴については、接種歴なしが 83 例、1 回が 27 例、2 回が 24 例、不明が 160 例であった。なお、届出には厳密に VZV の再活性化と区別されていない症例も含まれている。

2021 年以降の水痘の年間定点当たり累積報告数は 10 未満で推移しており、水痘ワクチンの定期接種化以降の 2015～2020 年と比較しても低水準であった。しかし、今年は第 24 週時点で定点当たり累積報告数が 8.1 となっており、COVID-19 流行前と同じ、あるいはそれ以上の水準で報告数が増加しているため、今後も発生動向に注意が必要である。発症と重症化の予防として、定期接種の対象となる幼児への水痘ワクチン接種を継続して実施し、接種率を高く維持することが最も重要である。

なお、2025 年第 15 週より感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、定点数ならびに定点医療機関が変更されていることに留意が必要である。

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1 高知県保健衛生総合庁舎2階
TEL：088-821-4961 FAX：088-821-4696
※この情報に記載のデータは 2025 年 7 月 1 日現在の情報により作成しています。

★高知県感染症情報 疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報（49定点医療機関）

第26週 令和7年6月23日（月）～令和7年6月29日（日）

高知県衛生環境研究所

定点名 (定点数)	疾病名等	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(25週)	高知県(26週未累計) R6/12/30～R7/6/29	全国(25週未累計) R6/12/30～R7/6/22
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*		50	232	828	226	47	135	1,518 (39.95)	1,467 (38.61)	200,018 (51.93)	16,546 (435.42)	2,368,882 (616.90)
	インフルエンザ				1				1 (0.03)	2 (0.05)	1,048 (0.27)	7,897 (207.82)	615,953 (139.48)
	新型コロナウイルス感 染症		2	5	20	5	3	13	48 (1.26)	22 (0.58)	3,841 (1.00)	4,009 (105.50)	373,772 (84.64)
小児科 (20)	咽頭結膜熱			2	4				6 (0.30)	5 (0.25)	1,706 (0.73)	137 (6.85)	25,038 (9.06)
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎		1	9	29		3	10	52 (2.60)	63 (3.15)	6,096 (2.60)	1,361 (68.05)	157,686 (57.07)
	感染性胃腸炎		2		36	5	4	19	66 (3.30)	82 (4.10)	13,621 (5.81)	2,516 (125.80)	506,044 (183.15)
	水痘				3				3 (0.15)	5 (0.25)	1,041 (0.44)	86 (4.30)	23,548 (8.52)
	手足口病				18	1		2	21 (1.05)	15 (0.75)	773 (0.33)	149 (7.45)	7,124 (2.58)
	伝染性紅斑				7	4	4	7	22 (1.10)	17 (0.85)	5,943 (2.53)	422 (21.10)	74,611 (27.00)
	突発性発疹			3	7				10 (0.50)	6 (0.30)	884 (0.38)	135 (6.75)	17,094 (6.19)
	ヘルパンギーナ			4	30	6	8	9	57 (2.85)	22 (1.10)	1,450 (0.62)	109 (5.45)	3,723 (1.35)
	流行性耳下腺炎				1				1 (0.05)	1 (0.05)	213 (0.09)	25 (1.25)	3,516 (1.27)
	RSウイルス感染症			1	1	2	1		5 (0.25)	17 (0.85)	560 (0.24)	417 (20.85)	51,681 (18.70)
眼科 (3)	急性出血性結膜炎								()	()	20 (0.03)	()	782 (1.13)
	流行性角結膜炎								()	()	603 (0.87)	26 (8.67)	13,745 (19.89)
基幹 (8)	細菌性髄膜炎								()	()	9 (0.02)	1 (0.13)	236 (0.49)
	無菌性髄膜炎								()	()	19 (0.04)	5 (0.63)	340 (0.71)
	マイコプラズマ肺炎				7				7 (0.88)	3 (0.38)	240 (0.50)	125 (15.63)	5,298 (11.04)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								()	()	2 ()	()	50 (0.10)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								()	2 (0.25)	25 (0.05)	21 (2.63)	1,671 (3.48)
計 (ARIを除く)		5 (3.67)	24 (5.46)	163 (19.97)	24 (10.50)	23 (10.75)	60 (17.52)	299 (14.32)			38,094	17,441 (581.17)	1,881,912
前週 (ARIを除く)		5 (4.33)	33 (10.07)	136 (16.73)	22 (9.75)	23 (10.50)	43 (14.62)		262 (12.91)				

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例
*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

注 () は定点当たり人数

高知県感染症情報（49定点医療機関） 定点当たり人数

第26週

定点名 (定点数)	疾病名等	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(25週)	高知県(26週未累計) R6/12/30～R7/6/29	全国(25週未累計) R6/12/30～R7/6/22
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*		16.67	33.14	63.69	56.50	11.75	19.29	39.95	38.61	51.93	435.42	616.90
	インフルエンザ					0.25			0.03	0.05	0.27	207.82	139.48
	新型コロナウイルス感 染症		0.67	0.71	1.54	1.25	0.75	1.86	1.26	0.58	1.00	105.50	84.64
小児科 (20)	咽頭結膜熱			0.50	0.50				0.30	0.25	0.73	6.85	9.06
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎		1.00	2.25	3.63		1.50	3.33	2.60	3.15	2.60	68.05	57.07
	感染性胃腸炎		2.00		4.50	2.50	2.00	6.33	3.30	4.10	5.81	125.80	183.15
	水痘				0.38				0.15	0.25	0.44	4.30	8.52
	手足口病				2.25	0.50		0.67	1.05	0.75	0.33	7.45	2.58
	伝染性紅斑				0.88	2.00	2.00	2.33	1.10	0.85	2.53	21.10	27.00
	突発性発疹			0.75	0.88				0.50	0.30	0.38	6.75	6.19
	ヘルパンギーナ			1.00	3.75	3.00	4.00	3.00	2.85	1.10	0.62	5.45	1.35
	流行性耳下腺炎				0.13				0.05	0.05	0.09	1.25	1.27
	RSウイルス感染症			0.25	0.13	1.00	0.50		0.25	0.85	0.24	20.85	18.70
眼科 (3)	急性出血性結膜炎										0.03		1.13
	流行性角結膜炎										0.87	8.67	19.89
基幹 (8)	細菌性髄膜炎										0.02	0.13	0.49
	無菌性髄膜炎										0.04	0.63	0.71
	マイコプラズマ肺炎				1.40				0.88	0.38	0.50	15.63	11.04
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)												0.10
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)									0.25	0.05	2.63	3.48
計 (ARIを除く)		3.67	5.46	19.97	10.50	10.75	17.52	14.32			581.17		
前週 (ARIを除く)		4.33	10.07	16.73	9.75	10.50	14.62		12.91				

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例
*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

疾病別・年齢別報告数

高知県感染症情報 (49定点医療機関)		疾病別・年齢別報告数													2025年					26w		
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上				
急性呼吸器感染症 (38)	急性呼吸器感染症 (ARI)*	1,518	129	535	280	175	71	30	44	40	36	49	59	70								
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
急性呼吸器感染症 (38)	インフルエンザ	1												1								
	新型コロナウイルス感染症	48	1		1		2				1			2	2	6	3	4	3	5	6	12
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上						
小児科 (20)	咽頭結膜熱	6			4	1									1							
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52			3	1	5	4	2	6	7	5	2	12		5						
	感染性胃腸炎	66	1	1	4	14	7	6	9	2	3	4		11	2	2						
	水痘	3									1	1		1								
	手足口病	21	1		5	6	5			3				1								
	伝染性紅斑	22			1	2	2	3	1	7	4				2							
	突発性発疹	10		1	7	2																
	ヘルパンギーナ	57	1	5	22	12	11	3	1	1	1											
	流行性耳下腺炎	1												1								
RSウイルス感染症	5			3	2																	
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
眼科 (3)	急性出血性結膜炎																					
	流行性角結膜炎																					
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上				
基幹 (8)	細菌性髄膜炎																					
	無菌性髄膜炎																					
	マイコプラズマ肺炎	7			1	4	2															
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)																					
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)																						

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例

*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

疾病別年次報告数推移 2025年第26週

(急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点)

